

甲板に破損したらんには其強は遂に其船に最後を與へざるべからず依りて思ふに彈は十二斤砲彈にして右艦砲艦の一の放ちたるものなりしなるべし

商船・禁制品の捕獲

以前の戦時於て捕獲したる他の日本の貨物凡て二十日には再び用ふるに足るべしと云ふ開戦前に豫想されたるが如く有能なる船渠設備を有するの便利既に大に日本に益せんとするの状を示し來りたるは之に依りて明なりと十露艦隊に對する其成功に加ふるに日本は亦多數の露國汽船を捕獲するを得たり内には海上に於て之を捕獲したるものあり又日本に於て捕獲したるものあり其日本港内に於て捕獲されたるものは即ち憲兵に於て其期日於て其所置を決する能はざりしものにして之が期日は十六日を以て盡きたり右捕獲汽船中には一萬五百噸の露國義勇艦隊汽船エカテリノスラウも包含し居れるもの如く此船にして若し之に損傷を與ふるを得ず捕獲され得たりとせば露國艦隊として蓋し貴重なる添加を得たるものなるべし水曜日(十七日)の本紙に載せたるロイドの報に據れば日本は又米國より東亞諸港に向はんとする汽船の捕獲を初めたりと云ふ此等汽船の報

荷は皆中立諸港に仕向けらるるものなり然れども日本は解釋して之を以て俄頃口に輸送するものなりと爲せり是に於てか仕向地の名義を中立港に假るの策は即ち破れたり然れども日本は先づ之を以て佐世保の捕獲審檢所に附し以て其解釋の可否を確定せざるべからず六隻の露國軍艦去る十五日ホルチック海上瑞典のゴートランド沖に見られたりとの説は未だ確報に接せず此等の軍艦若しキール運河に向け進駐し居たるものなるに於ては其到着は今日までに於て早く報せられざるべからざる管なり是を以てか此報を確信なりとするには尙ほ之が詳報を待たざるべからず

日本の陸兵輸送

若々集めらるる露國の普魯士南方港より日本アーマダ(船隊)の迅速進駐し居れるを示すものたるは最早や一點の疑を容るるを要せず第一回の輸送に於て幾許の軍隊運搬されたるか又此等は何れに上陸したるか此點に至りては未だ充分に明白ならず唯確信に知られたるは強大なる前衛隊に依りて仁川、京城間交通線の占領されたるにありとす此行動は同時に他の諸港に揚陸を行ふものと依りて要害の諸點及び諸陣地を占領するの目的を全くし以て其主力軍隊をして安全に集合するを得せしめたる事なるべし露國が此捕獲軍隊の多數を以て六萬人なりと信するは果して誤らざるや否や未だ之を知るを得ず其利益なるべしは其多數を將補するものと蓋し其利益なるべし此一難事の既に成功したるが爲めにや日本の檢閲は少しく其嚴酷の度を緩むるに至れり此檢閲なるものは必要なるに相違なしと雖も亦頗る苦情多き事業たりざるを得ず檢閲の制漸く寛なるに至りてより通信員等は長崎に於ける準備につきて徐々漏す所あるに至れり即ち其云ふ所に従へば去る十五日に於て戦備を完成せる一師團の兵を輸送するに堪へたる十隻ばかりの大汽船同港に集泊し居たりとなり其他の南部諸港及び内海の諸港また等しく之が準備を有すとせば我軍は遂に其國民の目的を遂行せんが爲め巧に海陸一切の方便を合せて以て海上強大なる遠征軍を派遣し得る海國の勢力なるもの如何に強大なるかを實例に依りて實見せしめられんとするものなり

露國の南方諸港及び内海の諸港また等しく之が準備を有すとせば我軍は遂に其國民の目的を遂行せんが爲め巧に海陸一切の方便を合せて以て海上強大なる遠征軍を派遣し得る海國の勢力なるもの如何に強大なるかを實例に依りて實見せしめられんとするものなり

流水に依りて効げられざるを得ず何れにするも今既に目前に迫り居れる事件に對して徒に豫言の辭を弄するは無用の業たるを免れざるべし

タイムスの日露

戦争批評 (十二)

二月十九日所載タイムス軍事投書家所論の下半部は即ち露國の日本をしてナポレオンの覆轍を踏ましめんと欲するものなるを論じたるものにして其要領は露國に米國新聞に轉傳されたるものに依りて既に之が譯載を経たりと雖も其全文を擧げれば左の如し

露國報復の宣言

其實際上之を發揮するを得るや否や其は知るべからざる所なりと雖も兎に

露國は此際その敵の勢力と其決意とにつきて頗る憂慮し居れるものなり「敵の勇敢、沈毅にして且つ敏捷なるものたるを記憶せよ」とは露國が實に其軍人に賜ひたる勅語にして「我等が敵は強大なり」とは亦總督の其宣言書に云へる所なりとす其哈爾濱に退却したりとの説あるもの即ち總督の之を斯く信じ居れる證なりと爲すべし

露國は此際その敵の勢力と其決意とにつきて頗る憂慮し居れるものなり「敵の勇敢、沈毅にして且つ敏捷なるものたるを記憶せよ」とは露國が實に其軍人に賜ひたる勅語にして「我等が敵は強大なり」とは亦總督の其宣言書に云へる所なりとす其哈爾濱に退却したりとの説あるもの即ち總督の之を斯く信じ居れる證なりと爲すべし

目的は之に依りて達せられ清國亦爲めに其正
當なる地位に復するを得べし然るに露國の
敵を以て哈爾濱よりバイカルに至りバイカル
より尙ほ長驅してウラル山に至るものなり
信せば其勢や濃なりと云はざるべからず千八
百十二年は既に去れり彼の大軍隊なるもの
日今は追ふべからず
露國の海軍なるを承認するものにして初めて
露國政府が形勢の實際を認知し得たるを示す
ものなり少くも幾分か改善したるものな
りと爲すべし此宣言は又露國が東洋に於ける
軍隊を其潰滅に放任して以て其武威の失墜を
意とせざるものにあらざるを顯示し且つ其軍
隊は俄軍大に至りて其數日本に超え以て之に
其待ち飽ぐねたる報復を加へ得るに至るまで
漸次後方に退嬰し機條の壓せられて存するも
のゝ如くに徐に其力を蓄へんことを欲するも
のなるを顯示す是れ大決心たるを妨げずして
露國に取りては左もあるべき事なり但し之が
成効は敵の意如何に依らざるべからざるな
り
露國果して其策に出でなば旅順口は結局壊滅
したる其大艦隊を包容して孤立の儘に棄てら
れ遂に憫むべき慘狀を呈し來るべく浦羅斯德

亦蓋し其例を襲ふべきなり是に至りて日本は
露國の野戰軍隊に多く意を用ふるを要せず靜
に露國領守府の前面に應じ其之を欲する時に
於て之を陥るゝを得べし即ち第一回陸戰の結
果として太平洋海岸の全部及び露國の砲臺と
艦隊は皆轉じて日本の有に移るべきなり是れ
最も事理に通せる人々の皆共に欲望し又期待
せんとする所なり露國若し千八百十二年の計
策を遂行するに於ては是れ以外の結果蓋し之
を望むべからず斯くの如き計策は今日の日に
難せず又今日の狀態に適せず唯他の國境に於
ては之を用ふるを得べく又他の敵に對し
ては之を用ふるを得べきなり
然りと雖も此大決心は露國に便益を與へ從て
日本に危難を與ふるに足るべき一種の原子を
含めるは我等敢て之を否定せんとするものに
あらざるなり職を長期に延き以て敵を疲らし
めんことを講ずるに於ては之に對し東方より
露國を征せんことを期して困難なり然れども露
國は其敵を疲らしむると同時に果して自ら疲
れざるを得るや二十五萬人の軍隊を絶え
ず戰場に維持し若しくは新機隊を建造するは
決して一首の歌を作るが如くに容易ならざる
なり
露國の執らんと欲する所は斷じて敵を疲らし

むるの策なり若し此宣言露國比利亞鐵道を以て
既に破断せりと欺くか又は其鐵道に破壞せるを
知つて草したる者にあらざれば其意味する
所必ず此外に出でざるべし是れ狂者の言なら
ざるを得ず何となれば日本一たび東亞の荒野
を蹂躙して狂奔するを欲せず平然として露國
を蹂躙して攻撃に着手せば露國及露國の軍
隊は之が救援に行進せざるを得ざるべきを以
てなり苟も一大軍隊を討しなから其職友の救
を呼號するに關せず露國が武器を擁して徒に
傍觀するを得るの理あらんや若し敢て之を爲
すものならば歐洲の笑話にして又亞細亞の嘲
笑に値せざるを得ず
(此日の所論也)

明治三十七年四月十三日時事

○タイムスの日露

戦争批評 (十二)

タイムスの軍事批評家が其二月廿三日發行
の紙上に論じたる所左の如し

日本上陸地點の北進

別項に掲載する威海衛よりの電報は頗る重要
なるものにして三箇師團より成る日本軍艦兵
の仁川に上陸したるものと之に依りて初め
て其信すべき報に接するを得たり是れ平壤を
以て其進軍の目的地とするものにして即ち海
軍に於て勝利を得たるの結果方略の此變更を
行ふを得るに至りたるを示すものなり日本は
一たび南方海岸に其兵を上陸せしめ韓國を統
貫して其進軍を行はんとすべし之に關する一
切の準備を整へたる後今斯く速に其方進を仁
川に變更したるは即其指導者に果決の明あり
又其諸準備のみに卓越せるものあるを充分に
表明するものなりとすべし三箇師團の兵は今
既に岸上にありて其進軍を初め他の軍隊輸送
船を護送する巡洋艦の一枝隊海上より之を掩
護し居たるが如し此運送船中には又既に上陸
したる師團の砲兵を少くも其一部分搭載し居
れるに似たり

露國が軍務經驗の欠乏

義州に於て日本兵隊の捕へられしは鴨綠江
岸に於ける露國軍隊の活動に乏しく且つ露國
を缺ける證據なりとして特に注意するに堪へ
たり原米此等の露國軍隊は任務を帯びる
敵の兵隊をして斯く故陣なく河岸にまで來
らしむるを得ざる筈なり然れども又記憶せざ
るべからず凡て露兵を以て組織する軍隊にあ
りては一部の故參將校を除く外全く戰闘の
事に進ぜざるもののみを御するものなるを露
國の軍隊は實に四半世紀の間大戦を見たるよ
となく從つて他の初學者と等しく徐に其學に
就かざるべからざるなり
軍務の經驗に乏しき同一の證據は僅に數日前
その右翼端に於ても亦生じたり即ちブラツグ
將軍が十五日を以て其境界地守備隊が新民店
驛路に於て「外見日本兵と覺しき騎馬兵候」
現れたりとの警報を齎したるを報じ又同一の
警告他の衛戍地よりも將軍の許に達したるは
皆人の記憶する所なり此所言には明に其信を
指かれたるものゝ如し若し之を以て眞なりと
せば日本兵は遼東海峽の北方に上陸し奉天に向
け既に進軍し居るものなりと爲さざるべか
らざる露國現今の所在は稍や不明なるものあり
と雖も此報に接して其翌日更に北方に退却し
たるに似たり當時予はブラツグ將軍なるもの
其斥候兵の見たりと云へる怪しの姿は果して

日本騎兵なりしか將た市邑に向はんとする滿
洲婦人なりしか之を明にする爲め其斥候兵
を執すを以て可なりとしたるを云へり今は既
に之を明にするの策を取られたるものゝ如く
即ち其結果として同地方に更に日本兵の存せ
ざるものと明白となり且つ報じて曰く「居民露
兵に對して別意なし」と
露國の制海權放棄
海軍上の形勢また一變して大に日本に有利な
るものとされりパヅロツフ氏は其政府に致す
に仁川港海戰の新消息を以てし露國中日本は
其軍艦二隻を失ひ多數の死傷者を出したりと
稱すも雖も同公使は戰闘當時京城にありたる
を以て氏の證言は日本の公報に對して何等の
價值を有するものにあらず日本公報は斯の如
き損害のあらざりしものと稱するに於て頗る
明白なり釜山沖には目下日本海軍の強大な
る一枝隊あり其ライツェンスタイン大佐(浦
羅艦隊司令官)を待たんとするものなるは疑
を容れざる所にして此枝隊は一二隻の砲艦
四隻の甲斐巡洋艦より成るものゝ如く尙ほ對
馬沖及び對馬海峽の兩面にありて警備の任に
當れる海防艦數隻その他の小艦艇亦之に加へ
らるべきを以て浦羅斯德の巡洋艦隊は其司令
官如何に功を齎らんとし南方に進航せんとす
るも其運動の之を遠くするを得ざるもの